

まえがき

この本、『高校生・受験生・大学生のための中堅大学活用術』は文字どおり中堅大学の活用法を紹介する本だ。中堅大学とは簡単に言えば「難関大学ではない大学」のことで、数の上では日本の大学の大半を占める。中堅大学の厳密な定義があるわけではないが、本書ではおおむね偏差値 60 未満の大学を念頭においている。難関大学への入学者の数は少ない。大学進学希望者の大多数（マジョリティー）は中堅大学に進学する。

執筆者は皆、中堅大学で教育指導、生活指導、進路指導をしている大学教員だ。私たちがこの本を企画したのは、私たち自身が学生指導に困っているからだ。その事情を説明したい。

最近、学生は満足できる学生生活が送れていないように見える。その原因が大学の側にあることもある。教員の授業が下手な場合や大学の進路指導が社会の現状にあっていない場合だ。そういう問題の改善には大学も教員も真剣に取り組んでいる。問題点がはっきりし対策方法もいろいろと考えられるので、時間をかければ改善できるだろう。

私たちが一番困るのは「改善が難しい問題」があることだ。それは、学生が中堅大学の実情を知らないで入学してくることや、大学がどんなところなのかについて勘違いしていることだ。そういう学生は勉強の面でも生活の面でも大学生活が下手だ。自分の現状が困ったものだという気にも気付かない。放置しておけば、何が何だかわからないまま、面白くもない 4 年間で過ごしてしまう。

これは学力の問題ではなく、大学についての理解や、大学で何をすることについての本人の意志の問題だ。高校でも予備校でもそういうことを教える授業などない。

入学後に学生に大学とは何かを理解してもらったり、勘違いを直してもらったりするのは簡単なことではない。なかなかかわかってもらえないし、

時間も手間もかかる。大学に来ている目的や意味がわかっていない学生は勉強や生活もうまくいかない。自分が誰なのか確認できないまま就職活動の時期になってしまう。そのような学生が就活で成功する可能性は低い。

私たちの学生が大学についてよく知らない理由は、私たちは大学進学情報のかたよりにあると考える。大学進学情報は有名大学や難関大学にかたより過ぎている。中堅大学の情報はとても少ない。

毎年のように大学選びをテーマとした多数の書籍や雑誌が発行されている。その内容はかなり似通っている。例えば『大学ランキング』（朝日新聞社）では次のようなテーマが扱われている。「すぐれた大学全国ランキング」「世界ランキング」「女子アナ出身ランキング」「ノーベル賞受賞者ランキング」「社長輩出ランキング」。

編集者は、高偏差値で、盛んな勉学意欲を持ち何事にも積極的に挑戦しようとする優秀な若者や、スポーツ・芸術・エンタテインメントなどの分野で高い望みを持つ若者を念頭に書籍作りをしていることがうかがえる。他の書籍でも「マスコミの話題の大学」「有名企業に入りやすい大学」「高収入職に就きやすい大学」など、週刊誌ネタ風の記事を掲載するのが一般的だ。

「学力偏差値を基準とした大学選び」（入口）と「有名企業への就職実績による大学選び」（出口）についてのさまざまな情報が、手を替え品を替え編集されている。詳しい説明が出ている大学はランキング上位大学、つまり難関大学、有名大学にほぼ限定されている。その様子は有名ブランド商品しか展示しない高級デパートのショーウィンドーのようだ。

数は少ないが、入口と、出口の紹介だけでなく、大学の中身（つまり授業内容）を紹介している記事もあるにはある。しかしそれは特別な大学の、マスコミネタになりそうな面白い授業や、選抜された少数学生に対する珍しい教育プログラム、あるいは1年に1回だけの特別なイベントの紹介で、「普通の大学」の授業の中身の紹介はどこにもない。

このような現状は、中堅大学で授業を行い、日常的に学生に接している大学教員にとっては不満だ。学力が特に高くもなく、特別な目標を持って

いるわけでもなく、芸術やスポーツの特別な才能も持たず、大学で何をしたいかはっきりしていないが、結果的に中堅大学に進学することになる若者が頼りにできる良いガイドブックがないからだ。

ここ 20 年間で社会は急速に変化し、大学や大学教育の仕組みや、学生生活が昔とは相当違ったものになっている。特に現在の中堅大学は、高校の先生や親御さんが知っている大学とはずいぶん違っている。しかし、大学の外の人が大学の現状を知るのは難しい。このような状況で、中堅大学に入ってくる学生にきちんとした大学教育を行い、一人前の社会人として卒業させるのは簡単ではない。

そこで、中堅大学に進学しようとする受験生と、中堅大学に入学した新入生を念頭に、学生は 4 年間で具体的に何をどんな風に学び、どんなアイデンティティを獲得し、大学をどう活用しているのかについて、現状をわかりやすく解説し、中堅大学を活用する術を紹介する本を作ろうと考えた。術とは「わざ、てだて（策略）、手段」（『広辞苑』という意味だ。そうすれば、高校生、受験生、新入生、親御さん、高校の進路指導の先生の役に立ち、大学で教育する私たちも助かる。

私たちは、大学は若者が将来、有意義な人生を過ごすためのさまざまな知識や技能を学べ、同時に、楽しく 4 年間で過ごせる場所だと考えている。この本を利用して中堅大学を活用できる学生になってほしい。

2014 年 9 月

宇田川拓雄

高校生・受験生・大学生のための中堅大学活用術

目 次

まえがき	i
------------	---

第1部 中堅大学入門

第1章 大学選びの基礎知識	2
---------------------	---

1. 大学は行く価値があるのか 2
 2. 偏差値と大学選び 3
 3. 大学は運命修正の大冒険 4
 4. 学力不足でも大学の授業は大丈夫だ 6
 5. 難関大学でなくとも大学は行く価値がある 6
 6. 主要科目は主要ではない 7
 7. 大学教育の効用 9
 8. どの大学を選ぶか 9
 9. 将来の夢は何か 13
 10. 職業は考えているか 14
- ▶コラム1 読みやすい文字は成功の鍵 16

第2章 大学生生活のコツ	17
--------------------	----

1. はじめに 17
 2. 大学では人間関係のネットワークを作る 17
 3. 地元の大学について 21
 4. 一人暮らしは大変だ 22
 5. お金について 24
 6. 危険を避けること 25
- ▶コラム2 筆記用具——シャープペンの選び方 28

第3章 大学デビュー——「社会人」になるためのスタート	29
1. 高校デビューから大学デビューへ	29
2. 大学デビューのために——大学生にとっての大学とは	32
3. 高校デビューから大学デビューへ——高校生にとっての大学とは	38
4. おわりに——社会人デビューに向けて	41
▶コラム3 アリバイ工作はやめよう	42
第4章 教養科目もマンガも J-POP も教養だ	44
1. 「履修基準」の謎——肩身が狭い教養科目	44
2. 教養は履修基準からはみ出るものだ	46
3. 誰だって教養の種はもっている	48
4. 深く辿る、「結び目」を探す	50
5. 教養とは「つなげる」こと	54
▶コラム4 学校ユートピアからの卒業	57
第5章 企業から見た中堅大学	59
1. はじめに	59
2. 「中堅大学」の新卒生に対する企業の関心は高い	59
3. 大卒新規採用（学生の就職）の現在	60
4. 中堅大学の学生の企業に入ってから役割	66
5. おわりに	68
▶コラム5 数学と物理学	70
第6章 IT ツールのちょっと「大人」な使い方	71
1. 機材の選定——余裕のある作業空間で仕事をする	71
2. タッチタイピング——自分の身体の動きを知る	73
3. 紙媒体を重視しよう	75
4. 大学生っぽいネット情報空間を知ること	77
5. ネットの「発信」は「大人」の所作で	79

▶コラム6 交換留学という方法 81

第2部 特徴ある授業の紹介

第7章 大学で対話力を学ぶ 84

1. 対話をするということ 85
2. 社会人基礎力と対話力 87
3. 対話の方法を学ぶ授業「話し合いトレーニング」 90
4. 大学で対話力を養う意義 96

▶コラム7 学生料理のすすめ——未来の自分の身体のために 97

第8章 わかりやすい成績評価法——理系科目を例に 99

1. 大学の「単位」とは？ 99
2. 単位をとるためには？ 101
3. わかりやすい成績評価方法 103
4. おわりに 109

▶コラム8 カタカナ英語学習は、日本語学習の第一歩 110

第9章 英語とどうつきあうか 112

1. 中堅大学の英語環境 112
2. 中堅大学と外国語教育 113
3. 大学の英語 115
4. 大学の授業で英語力向上は可能か 117
5. 外国語上達のコツ 118

▶コラム9 女子学生の海外生活 123

第10章 日本語教員養成プログラム	125
1. はじめに	125
2. 日本語教師とは	126
3. 日本語教師はどこで教えるのか	126
4. 日本語教師は「国語教師」や「英語教師」と同じか	127
5. 日本語教師は日本人か	127
6. 日本語教員養成プログラムとは	128
7. 日本語教員養成プログラムの科目の構成とその内容	129
8. 実習系の授業	132
9. 日本語教員養成プログラムの枠を超えて	133
10. 日本語教員養成プログラム修了後	134
11. おわりに	135
▶コラム10 メディア・ネットの大衆化——育った時代の特徴を知っておこう	136
第11章 大学でメタ学習（学び方の学び方）を学ぶ	138
1. はじめに——メタ認知とは	138
2. 大学における学習支援の背景	140
3. 学ぶ力を身につける	145
4. おわりに	147
第12章 国語と日本語	149
1. 国語の勉強	149
2. 大学にも国語はあるの？	150
3. 大学では国語であまりやっていないことが大切になる	151
4. 大学の国語——高校の国語でやらなかったこと	152
5. 中堅大学の授業の実際	157
6. おわりに	159

第 13 章 文化人類学的フィールドワークを楽しむ	160
1. 文化人類学を学ぶには	160
2. 文化人類学に関する誤解	161
3. 文化を比較する視点	163
4. なんでもありの文化人類学	163
5. テーマは当たり前のこと	164
6. 小さな疑問をもって世界へ	165
7. 文化人類学のフィールドワーク	166
8. 言葉を覚える	167
9. フィールドワークは準備からはじまる	168
10. 建前と本音、現場の言葉	169
11. カルチャーショックの達人を目指す	170
12. 文化人類学は役に立つ	171
第 14 章 就活に役立つキャリア支援科目	173
1. 就職支援とキャリアセンター	173
2. 態度が問題だ	175
3. 学生の態度修正	178
4. 強化項目	181
あとがきに代えて——著者たちからのメッセージ	187
著者紹介	191